

WEEKLY SIGNAL

平成27年11月27日(金) 1301号

来週の市場とレート予想

上田八木短資株式会社

	11/30(月)	12/1(火)	12/2(水)	12/3(木)	12/4(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	ト ン	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他	+ 9,000	△ 12,000	△ 81,000	+ 3,000	+ 6,000
資金需給	余 9,000	不 13,000	不 82,000	余 1,000	余 4,000
主な要因			法人税・消費税・保険揚げ	交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,600 CP等買入 △ 3,500				成長基盤強化 △ 4,000
オペスタート	国債買入 + 8,200 共通担保(全店) + 1,300 CP等買入 + 4,500	短国買入 + 2,500			
(日本)	黒田日銀総裁講演(名古屋市) 日銀、決済動向(10月) 鉱工業生産指数(10月) 住宅着工統計(10月)	法人企業統計調査 (法人季報7-9月期) 新車販売台数(11月)	岩田日銀副総裁講演(岡山市) マネタリーベース(11月) 国内銀行の資産・負債等 (銀行勘定10月末) 日銀営業毎旬報告 (11月30日現在) エネルギーと生鮮食品を除く 消費者物価指数(10月、詳細) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	木内日銀審議委員講演(都内) 対外対内証券売買(前週分) 日銀当座預金増減要因 (12月見込)	毎月勤労統計(10月) 消費動向調査(11月)
(海外)	米 IMF理事会、人民元の SDR構成通貨の採用を判断 米 シカゴ製造業景況指数(11月) 米 中古住宅販売成約指数 (10月)	米 シカゴ連銀総裁講演 米 建設支出(10月) 米 ISM製造業景況指数(11月) 欧 ユーロ圏製造業PMI (11月改定値) 欧 ユーロ圏失業率(10月)	米 MBA住宅ローン申請指数 米 ADP雇用統計(11月) 米 ベージュブック 米 イエレンFRB議長講演 米 アトランタ連銀総裁講演 米 サンフランシスコ連銀総裁講演 欧 ユーロ圏生産者物価指数 (10月) 欧 ユーロ圏消費者物価指数 (11月、速報値)	米 新規失業保険申請件数 米 製造業受注(10月) 米 耐久財受注(10月) 米 ISM非製造業景況指数(11月) 米 イエレンFRB議長、上下両院 経済合同委員会で証言 米 FRB副議長講演 欧 ECB金融政策発表 欧 ユーロ圏総合PMI (11月、改定値) 欧 ユーロ圏小売売上高(10月)	米 雇用統計(11月) 米 貿易統計(10月)

<インターバンク>

当座預金残高は週初、245兆1,700億円であった。その後は短国・国債買入を主因に増加したが、週末は財政要因で減少し243兆9,900億円を越えた。無担保コールON物は、週を通して、地銀・信託勢を中心に0.076~0.078%のレンジで取引された。また24~26日においては試取りとみられる動きが散発され、0.12%超での出合も見られた。ターム物は、2W物で0.11%台後半の出合が見られた。27日に実施された国庫短期証券買入のオファー額は先週に引き続き2,500億円であった。同日に入札が行われた2年利付国債(第359回)の入札結果は、最高落札利回りが△0.002%となり、2年債入札として初めてマイナス水準となった。また、平均落札利回りは△0.004%で過去最低を更新した。日銀が27日に発表した基調的なインフレ率を捕捉するための指標(速報)によると、生鮮食品とエネルギーを除いた消費者物価の前年比上昇率が10月は+1.2%であった。来週の予定は、黒田日銀総裁講演(30日)、海外では、ベージュブック(2日)、イエレンFRB議長講演(2日)、ECB金融政策発表(3日)などが挙げられる。

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.075 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.155
SPOT 3M	0.119 ~ 0.160
SPOT 6M	0.120 ~ 0.170

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.050 ~ 0.070
TDB 3M	△0.100 ~ △0.020
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約1兆7,400億円で、期落ち額約1兆1,100億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。鉄鋼や石油で大型案件が目立った他、電力会社の発行が見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.060%前半~0.080%前半で推移した。

現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。

来週の期落ち額は約3,700億円程度となっている。今週に引き続き、年末の調達増が期待される。

<TDB>

26日に国庫短期証券3M第573回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0353%(前回債△0.0357%)、平均落札レートは△0.0863%(前回債△0.0391%)と前回債から平均利回りは大きく低下した。セカンダリーは3Mで△0.05%近辺の出合い。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来月3日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

今週の足許GCは、週初0.075%~0.08%近辺の水準から始まった。受渡が月末初となるため注目されていた26日には、短国3Mの発行であったこともあり、オファーが堅調であり低下幅は1bps程度の0.07~0.075%での出合いとなった。また週末には短国買入オペが先週と同額の2500億円オファーされるも0.07%~0.075%の出合とレート水準を下げることなく越えた。

SCでは5年債は120・121・124・125回債、10年債は325・327・328・329・339・340回債、20年債は152・153・154回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。